

中学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

平成 1 4 年 度

教 育 研 究 員 名 簿 (総 合 的 な 学 習 の 時 間)

| 区 市 町 村 名 | 学 校 名 | 氏 名 |
|-----------|-----------------|----------|
| 中 央 区 | 銀 座 中 学 校 | 澤 山 高 明 |
| 大 田 区 | 糺 谷 中 学 校 | 田 原 弘 一 |
| 北 区 | 北 中 学 校 | 宮 澤 伸 次 |
| 板 橋 区 | 向 原 中 学 校 | 柳 歆 子 |
| 練 馬 区 | 大 泉 学 園 中 学 校 | 佐 藤 清 |
| 江 戸 川 区 | 南 葛 西 第 二 中 学 校 | 藤 田 修 史 |
| 江 戸 川 区 | 小 岩 第 五 中 学 校 | ○北 川 哲 郎 |
| 八 王 子 市 | 第 三 中 学 校 | ◎平 戸 孝 幸 |
| 清 瀬 市 | 清 瀬 中 学 校 | 矢 部 昇 |
| あ き る 野 市 | 御 堂 中 学 校 | 西 村 元 一 |

◎ 世 話 人

○ 副 世 話 人

担 当 東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー 統 括 指 導 主 事 村 上 み な 子

目 次

| | | |
|-----|----------------------------------|----|
| I | 主題設定の理由 | 2 |
| II | 研究の概要 | 3 |
| 1 | 仮説の設定 | 3 |
| 2 | 研究内容・方法 | 3 |
| 3 | 研究の構想図 | 4 |
| III | 「総合的な学習の時間」に関する実態調査 | 5 |
| 1 | 各学校における状況 | 5 |
| (1) | 平成14年度「総合的な学習の時間」の学習テーマ | 5 |
| (2) | 「総合的な学習の時間」により身に付けさせたい力 | 5 |
| (3) | 「総合的な学習の時間」の実施上の課題 | 5 |
| (4) | 生徒への支援が必要な場面と生徒が支援を必要としている場面 | 5 |
| (5) | 「総合的な学習の時間」において活用している、活用したい人材・施設 | 6 |
| 2 | 公立図書館の利用状況 | 6 |
| (1) | 中学校の利用状況 | 6 |
| (2) | 中学校の図書館利用上の課題 | 6 |
| 3 | 考察 | 7 |
| IV | 「総合的な学習の時間」の学習支援と評価 | 8 |
| 1 | 「総合的な学習の時間」と調べ学習 | 8 |
| 2 | 多様な学習資源と支援体制 | 8 |
| 3 | 「総合的な学習の時間」の評価の実際 | 9 |
| (1) | 評価の考え方 | 9 |
| (2) | ポートフォリオ評価の活用 | 9 |
| (3) | 学習段階別評価規準の明示 | 9 |
| | ＜図1＞多様な学習支援と学校・家庭・地域の連携による支援体制 | 10 |
| | ＜表1＞学習段階別の学習支援一覧 | 11 |
| | ＜表2＞学習段階別の評価方法・評価規準一覧 | 12 |
| 4 | 学習段階別の学習支援と評価 | 14 |
| (1) | 課題設定の段階における学習支援と評価 | 14 |
| (2) | 課題解決の段階、学習のまとめ・発展の段階における学習支援と評価 | 15 |
| V | 実践事例 | 16 |
| 1 | 動機付けから課題設定の段階における検証授業 | 16 |
| 2 | 情報収集の段階における検証授業 | 20 |
| VI | 成果と課題・提案 | 23 |

研究主題

子どもが楽しく調べ学習を進めるための学習支援と評価の工夫

I 主題設定の理由

社会の変化に伴い、子どもたちに必要とされる力も変化してきた。中教審答申（H8）では、激動する社会をたくましく生きる力として、「主体的な問題解決力」「豊かな人間性」「健康・体力」を挙げ、それらを「生きる力」とした。そして、新学習指導要領では、これを受け「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して、問題を解決する力」をはぐくみ「自己の生き方を考えることができる」ことをねらいとして「総合的な学習の時間」が創設された。そのねらいから、自ら課題を設定し、自ら調べて学習する問題解決型の学習が求められ、豊かな体験や様々なかかわりを大切にした子どもたちの主体的な学びが重要視されている。

2年間の移行期間を経て完全実施となった今、各学校においては「総合的な学習の時間」を充実することが課題となっているが、現状は、様々な課題を抱えて実施している状況がある。

研究員の月例会の中では、「体験学習を行ったが、自ら課題を見付けたり、課題解決につながる情報を引き出すことができず、子どもの学びが深まらない」「課題を決めて、調べ学習を始めても、何をどのように調べたらよいか分からず、学習が行き詰まってしまう」「インターネットに載っていた文章を写すだけで終わってしまい、理解した上でまとめることができない」などの問題点が挙げられた。このことは、子どもたちが主体的に「調べ」「学ぶ」方法を身に付けていないことが原因となっており、子どもたちの「調べ学習」を支える教師の指導上の課題でもあると考える。本研究で実施したアンケート調査では、子どもたちは「課題を見付けるとき」「課題について調べるとき」「学習をまとめるとき」に教師のアドバイスを求めている。教師は、支援の必要性を認識しながらも「生徒への支援の方法」を課題としており、調べ学習に戸惑う子どもたちの姿や支援に悩む教師の姿が推察できる。同時に、評価方法についても多くの教師が課題としており、「総合的な学習の時間」の評価の難しさを表している。教師が子どもたちの学習活動を適切に評価することは、子どもたちのつまずきに気付くことであり、自らの指導上の課題を見付け修正するなど、学習を支援をする上で不可欠な要素である。また、子どもたちは、適切に評価されることにより、意欲を高め、学びの活力を生み出す。さらに、子ども自身の評価や子ども同士の評価は、自らの学習状況を見直し、学習を充実させる機動力ともなる。

このように「総合的な学習の時間」における学習支援と評価を工夫し、充実・改善していくことを重要な課題として再認識し、積極的に取り組んでいかなければならないと考える。

また、「総合的な学習の時間」の実施に伴い、学校の図書室だけではなく公共の図書館利用も急増しており、施設の環境整備や利用上の新たな課題も浮上してきた。そして、子どもたちの「調べ学習」が充実するにつれ、その活動範囲は校内から校外へと徐々に広がりを見せてきた。

そこで、本研究では、子どもたちが主体的に「調べ学習」を楽しく進めるために、学習に関連する様々な学校内外の学習資源について整理するとともに、有効な学習支援と評価の方法について研究を進めることとした。

II 研究の概要

1 仮説の設定

本研究を進めるに当たり、次のような仮説を設定した。

「総合的な学習の時間」において、課題設定の段階（動機付け・課題発見・課題設定）、課題解決の段階（情報収集・情報処理・考察）、学習のまとめ・発展の段階（情報発信・発展）のそれぞれの学習段階において、適切な方法による評価と教師をはじめとする様々な学習支援が有効に機能し合えば、子どもたちは主体的に調べ学習を楽しく進めることができるであろう。

2 研究の内容・方法

(1) 実態調査の実施

各学校の「総合的な学習の時間」の取り組み状況を把握するために、学校・教師・生徒・公立図書館を対象にアンケート調査を実施し、問題点や課題を探った。

(2) 各学習段階における学習支援の在り方の検討

「総合的な学習の時間」の学習支援を学習に関連する学習資源に着目し、学校内外の学習資源を整理した。本研究では、次のように分類し学習段階ごとの有効な支援を明確にした。

<学習支援の分類>

① 教師の支援

- ★意欲を喚起させる支援 → 基礎知識習得時の活動意欲の持続、活動停滞時の打開のための支援
- ★学習スキルを向上させる支援 → 課題焦点化、情報の所在、学習方法、発表のスキルに関する支援
- ★学習を深めさせる支援 → 問題の提起、考えを深めるための問いかけなどによる支援

② 子ども同士による支援

- ★グループにおける話し合いなどによる相互支援
- ★発表時の相互評価による相互支援

③ 学校外からの支援

- ★人的支援 → 保護者、地域の人々、専門家、企業関係者などの学校外の人材
- ★物的支援 → 図書館、博物館、美術館、資料館、情報センターなどの公共施設、企業、民間施設

(3) 各学習段階における評価規準の明確化

「総合的な学習の時間」における評価が課題とされるのは、子どもにどんな力を身に付けることを目指しているのか、学習活動のどの場面を評価したらよいのかなど、評価のよりどころが明確にされていないためと考える。そこで、本研究では、単位時間にも応用できる学習段階ごとの評価規準を研究し明確にした。

(4) 授業による検証

本研究では、実施上の課題となっている「自己の課題を設定する段階」と「課題解決に向けた情報収集の段階」における検証授業を実施し、各学習段階の特性を生かした多様な学習支援と評価の在り方について検証し、その有効性を明らかにした。

3 研究の構想図

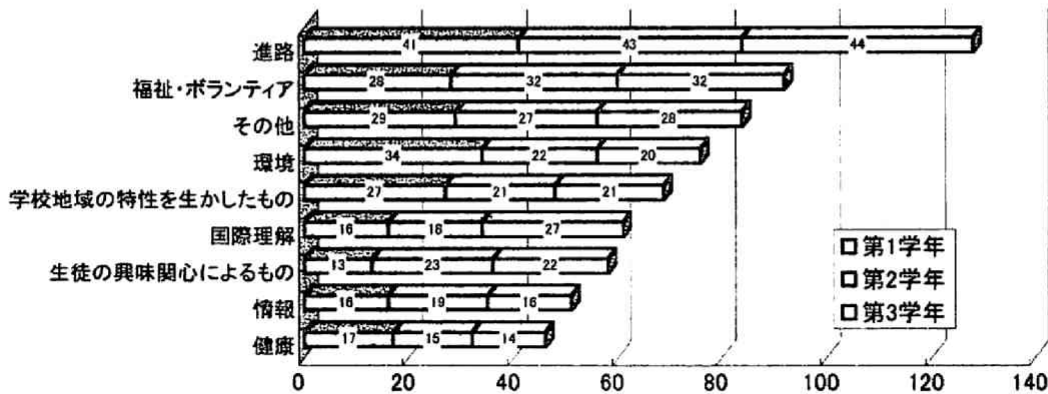


Ⅲ 「総合的な学習の時間」に関する実態調査

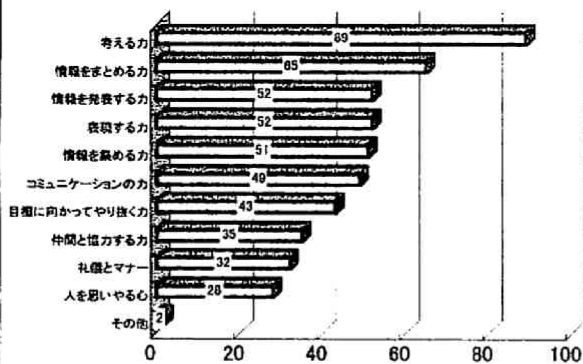
研究を進めるに当たって、「総合的な学習の時間」に関するアンケート調査を学校・教師・生徒・図書館を対象として、都内67校の中学校と都内73館の公立図書館の協力により実施した。対象人数は中学校において教師131人、生徒933人、公立図書館職員73人であり、実施時期は平成14年9月に行った。なお「総合的な学習の時間」は以下「総合」とする。

1 各学校における実施状況 (複数回答可：単位は人)

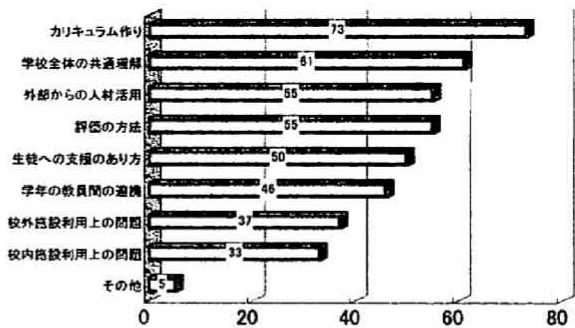
(1) 平成14年度「総合」の学習テーマ



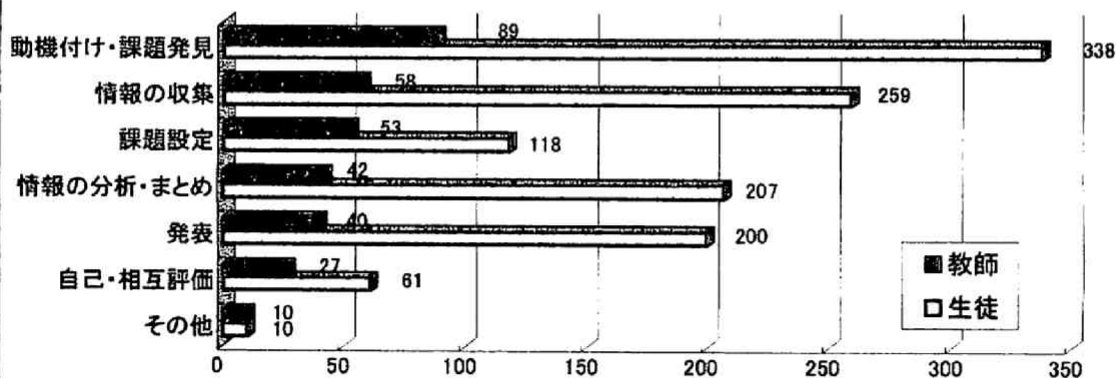
(2) 「総合」により身に付けさせたい力



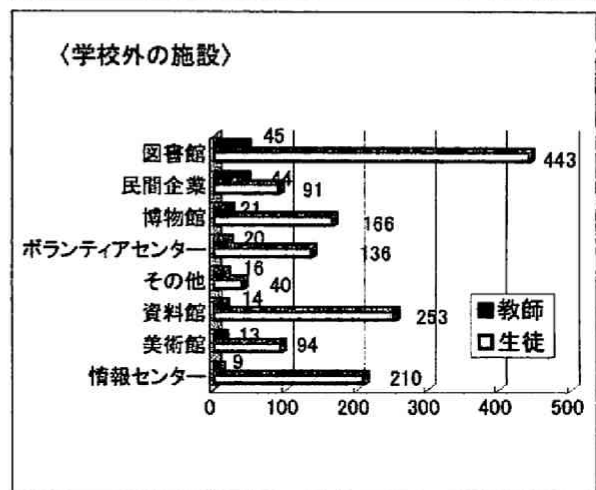
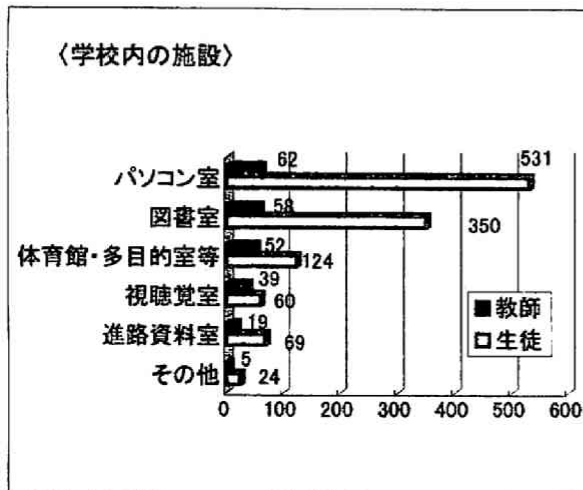
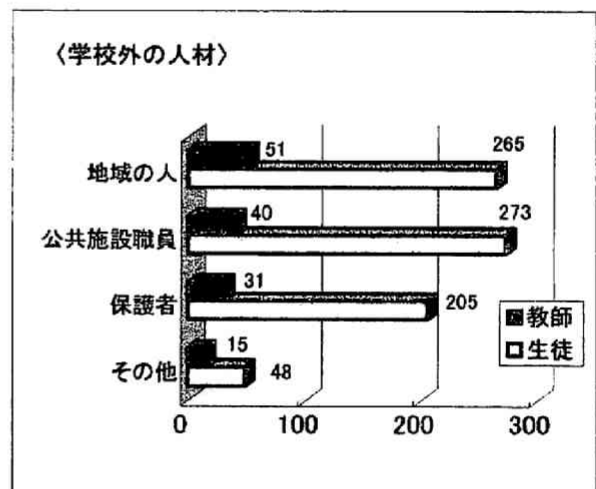
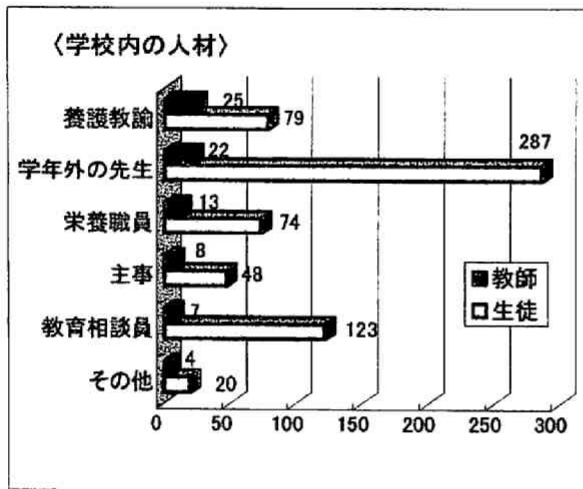
(3) 「総合」の実施上の課題



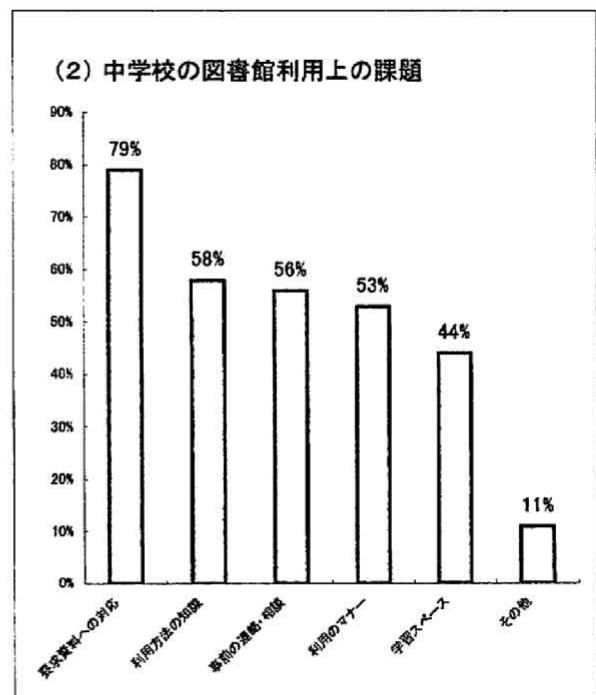
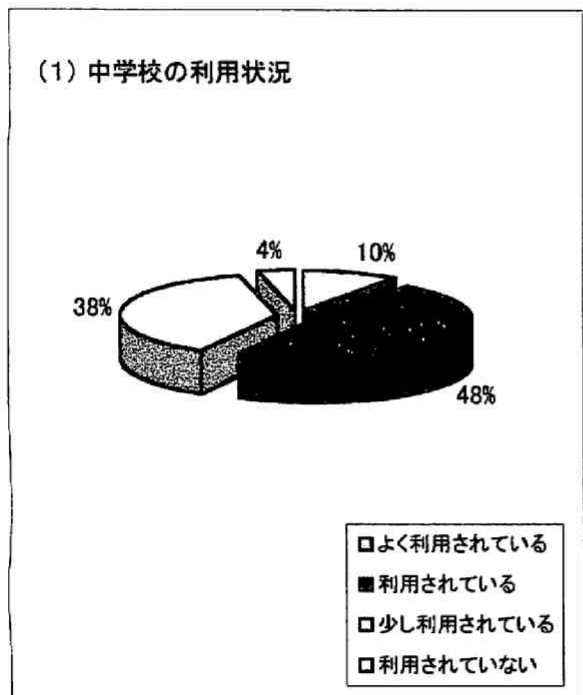
(4) 生徒への支援が必要な場面と生徒が支援を必要としている場面



(5) 「総合」において活用している、活用したい人材・施設 (上段 教師 下段 生徒)



2 公立図書館の利用状況 ((2)は複数回答可:単位は%)



3 考察

< 学校の実施状況 >

(1) 平成14年度「総合的な学習の時間」の学習テーマ

進路が最も多いが、その他にも多い。各学校は様々なテーマを設定し、学校独自の「総合的な学習の時間」を工夫し実践している。

(2) 「総合的な学習の時間」により身に付けさせたい力

考える力・情報をまとめる力・発表する力・表現する力・情報を集める力・コミュニケーションの力の順となっており、各学習段階における実践スキルを求めている。

(3) 「総合的な学習の時間」の実施上の課題

カリキュラム作りと学校全体の共通理解など実施上の基本的な事柄が上位を占めている。また、外部の人材活用、評価、生徒への支援、施設利用上の問題など実際に「総合」を進める上での具体的な課題も多く挙げており、早急にこれらの課題に対処する必要がある。

(4) 生徒への支援が必要な場面と生徒が支援を必要としている場面

生徒も教師もともに支援を必要としている場面を共通に認識している。したがって、各学習段階での支援の場面で、教師をはじめとする「総合」にかかわる人々が、適切な支援をすることにより、「総合」の学習活動は楽しく充実したものになると考える。

(5) 「総合的な学習の時間」において活用している、活用したい人材・施設

人材では、生徒は、学校内において学年の教師以外の人々からも広く学びの機会を求めている。また、学校外の人々との交流も望んでおり、こうした機会を「総合」の中で多く設けることが、生徒の学習をより豊かなものにできると考える。

施設では、学校内はパソコン室や図書室の活用度がとても高くなっている。インターネットなどの環境整備や図書の充実、年間の図書の購入計画等の工夫が必要である。また、進路が学習テーマで多いことから、進路資料室を充実することや、動機付けや課題発見のための視聴覚教材を提供できる視聴覚室を充実することが必要である。さらに、グループ学習を行う際の多目的室や作業室の確保も大切である。学校外では、主に情報収集のための図書館、資料館など、職場体験のための民間企業や福祉体験などのためのボランティアセンターなど、様々な体験ができる施設を活用することが考えられている。

< 公立図書館の利用状況 >

(1) 中学校の利用状況

学校外の活用施設としての図書館は「よく利用している」「利用されている」を合わせると58%となり、「総合」の調べ学習を進める上で、中学生の図書館の利用度は高い。

(2) 中学校の図書館利用上の課題

図書館の利用上の課題として、まず要求資料への対応と事前の連絡相談が挙げられている。同じテーマに対して一度に多数の生徒が来館し必要情報を求めるため、図書館側は対応に苦慮している状況があり、図書館と学校との連携の在り方が課題である。また、図書館利用の方法や利用のマナーの知識や参考資料の調べ方を子どもが理解していないことが多く、学校側が図書館利用についての事前指導をしっかりと行う必要がある。

IV 「総合的な学習の時間」の学習支援と評価

1 「総合的な学習の時間」と調べ学習

「総合的な学習の時間」は、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」をねらいとしており、子どもたちは、自ら設定した課題に対して、自ら課題解決の方法を考え、計画的に学習活動を進めていく。その学習スタイルは、教科等の学習と違い、教科書は無く、観察、実験、調査、インタビュー、討論など体験的・問題解決的な学習方法により展開するなど、自ら考え、判断し、自ら調べる学習であると考えられる。

そこで、本研究では、このような学習スタイルの特性から「総合的な学習の時間」の全学習過程を総称して「調べ学習」とした。そして、学習の進め方や学習内容から、学習段階を動機付け・課題発見・課題設定・情報収集・情報処理・考察・情報発信・発展に分類するとともにこれらの学習段階の学習状況から、さらに次のように分類した。

- | | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| ①「課題設定」の段階（動機付け～課題設定） | → 「調べ学習」の土台を築く段階 |
| ②「課題解決」の段階（情報収集～考察） | → 「調べ学習」の情報を収集・処理し 考察する段階 |
| ③「学習のまとめ・発展」の段階 （情報発信・発展） | → 「調べ学習」の発表に向け、考えに 筋道をつけ、論理性を高める段階 |

2 多様な学習資源と支援体制

「総合的な学習の時間」は、個々の子どもたちの課題設定によって、学習内容や方法が方向付けられる。例えば、「高齢者とのふれあい」が課題である場合には、図書館やインターネットで福祉に関する調査をしたり、地域の福祉施設の訪問やふれあい給食の体験など、個々の学習活動に様々な人や物、時間、施設などが関係してくる。このように、「総合的な学習の時間」を実施するに当たり、何がどのようにかかわって学習が展開されていくかを明らかにしておく必要がある。そこで、学習に関連する学習の教材となるものや活用できる施設や人材など「総合的な学習の時間」の学習にかかわる全ての事柄を学習の資源をしてとらえ、人材や施設などは、学校内と学校外とに分けて整理した。また、教師や様々な立ち場の人からの知識の提供やアドバイスなどは、子どもの学習活動に直接的に働きかける学習支援であるとともに、図書室やパソコン室などの学校内の施設や図書館、情報センターなどの様々な学校外の施設もまた、子どもの学習活動を間接的に支える学習支援である。さらに、体験的な学習の場の設定やゆとりある学習環境や時間の配慮などは目に見えない大切な学習支援であると考えられる。

よって、教師は、子どもたちが多様な学習資源とよりよいかかわり方ができるように配慮するとともに、校内体制づくりや学習環境の整備を心がけ、地域を基盤とした人材や施設などの学習資源を円滑に活用するシステム作りが課題となる。そこで、図1（P10）のように、学習資源を基盤とした支援体制についてまとめるとともに、学習段階ごとの学習活動を想定し、関連する学習資源を活用した具体的な学習支援の在り方を表1（P11）のようにまとめた。

3 「総合的な学習の時間」の評価の実際

(1) 評価の考え方

全ての教育活動に評価は欠かせない。その評価を円滑に且つ効果的に行うには、「何を」「誰が」「どの場面で」「どのように」評価するのかを明らかにしておくことが大切である。

「総合的な学習の時間」の評価については、この時間の趣旨やねらいを踏まえて、子どもの多様な活動や各学習段階に見られる学習状況や学習成果などについて、教師・子ども自身・子ども同士・学習に関係した者などが、子どもの良い点や学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを、評価カードやアドバイスカード、感想、対話などにより、適切に評価するものと考え、そして、その評価は、子どものための評価であると同時に、教師のための評価でもあり、その後の教師の支援・指導にも生かされていかなければならない。

また、適切な評価は、子どもの学習意欲を引き出し、取り組んでいる課題についてより深く考えるきっかけとなったり、個々の子どもの学習活動の修正や充実を促すなど、学習支援としての機能があると考え、

(2) ポートフォリオ評価の活用

「総合的な学習の時間」は、子どもたちが自ら設定した課題に対して、自ら考えた方法で計画的に調べ学習を進め、一人一人の子どもが独自の学びを創造していく学習であると考え、そのため、一人一人の子どもの学習過程が重要視され、各学習段階において一人一人の子どもが自己の学習を振り返り、確認したりしながら、調べ学習を進めていくことができるような評価の在り方が課題となる。そこで、子どもが自己の学習活動のすべてを学習ファイルとして集積し、学習内容や学習成果を自己評価や相互評価を計画的に行いながら、独自の学習ファイルに編集していく「ポートフォリオ評価」が有効であると考え、

各単位時間ごとに調べ学習で得た資料や感想、作品や報告書、メッセージ、評価カードなどが学習ファイルとして綴じ込まれたポートフォリオは、学習の見直しや改善、自己理解や自己実現に役立つとともに、保護者をはじめ学習に関係した人々とを結びつける資料として、また、教師の支援・指導や生徒理解の資料として活用することができる。

(3) 学習段階別評価規準の明示

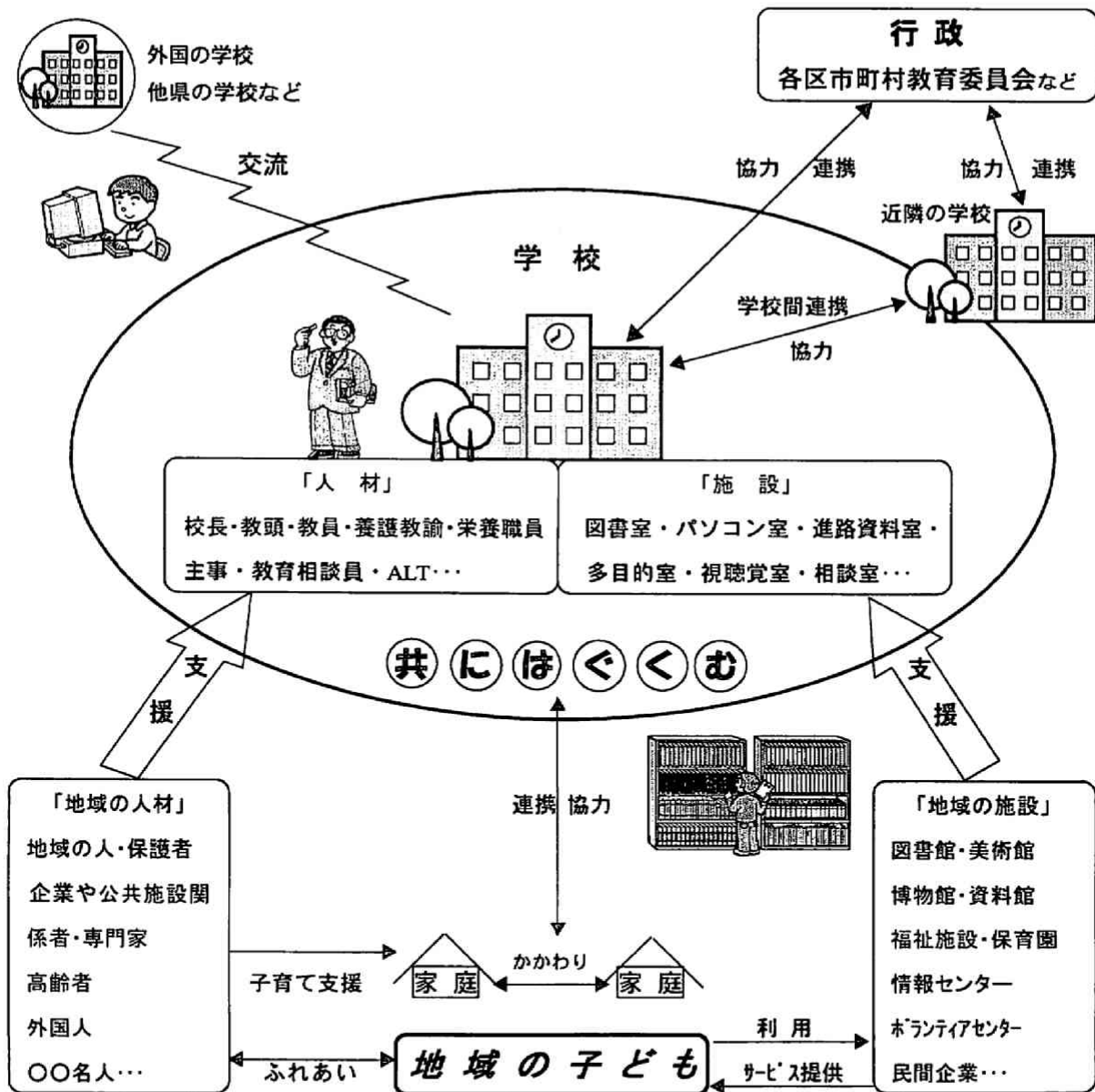
一人一人の子どもたちの学習状況をより適切に評価し、それぞれの学習活動を充実させていくためには、単元のねらいや予想される学習活動を基盤として、評価の観点を定め、単位時間ごとに活用できる評価規準を設定する必要があると考え、

本研究では、「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえ、各学習段階の子どもたちの学習活動を予想して必要となる力を考え、生きる力をはぐくむとともに、調べ学習を進める上での実践的なスキルを身に付けること目指して次のように評価の観点を設定した。

- | | | | |
|-----------|---------------------|----------|--------------|
| ①関心・意欲・態度 | ②課題発見力 | ③学習を見通す力 | ④情報収集力 |
| ⑤情報処理能力 | ⑥考察力 | ⑦自己表現力 | ⑧コミュニケーション能力 |
| ⑨生き方を考える力 | ⑩その他（そのテーマによる固有のもの） | | |

そして、表2（P12 P13）のように学習段階別の評価方法・評価規準の一覧を作成し、学習段階別に、評価者・方法、重点を置く評価の観点、評価規準をそれぞれ明確にした。

<図1> 多様な学習資源と学校・家庭・地域の連携による支援体制



注目される図書館

— 図書館を活用しよう! —

「総合的な学習の時間」の実施にともない、学校図書館や公立図書館は学習情報を収集するための必要な施設としてこれまで以上に利用されるようになった。今、地域の図書館では、学校との連携を図りながら次のような取り組みや工夫が始まっている。

- * 図書館利用案内やブックリストを地域の小・中学校に配布
- * 中高校生対象のヤングコーナーの設置、ヤングタイムスの発行
- * 中学校からのテーマ別図書の貸し出し依頼に対応
- * 図書館見学、図書館員体験受け入れ
- * 図書担当教員と図書館職員との連絡会や研修会実施
- * 教員向けの図書館利用案内作成配布など

★「図書館に連絡」が連携の第一歩!

<表1> 学習段階別の学習支援一覧

| 学習段階 | | 予想される生徒の学習活動 | 学習支援 | | | |
|--------------|------|--------------------|---|--|----------------------------------|----------------------------|
| | | | 教師 | 生徒相互 | 学校外 | |
| 課題設定の段階 | 動機付け | ガイダンス | ・学習のねらいや方法を知る。 | ・説明 | ・グループ内で確認 | |
| | | | ・学習のテーマを理解する。 | ・事例の提示 | | ・情報提供 |
| | | | ・テーマに関するビデオ鑑賞や講話を聞く。 | ・VTR、写真、新聞記事、資料の提示 | | ・事例の提供(講話) |
| | | | ・テーマに関連した体験をする。 | ・体験学習の場の設定 | ・グループで協力 | ・施設の提供 |
| | | | ・ガイダンスのまとめをする。 | ・説明、言葉かけ | ・グループ内で意見交換 | ・アドバイス |
| | 課題発見 | 課題の創造 | ・これまでの学習を振り返る。 ・自分の興味関心を具体化する。 ・ウェビングで発想を広げる。 | ・学習の振り返り ・説明、言葉かけ ・アドバイス | ・グループ内で討論、意見交換 | ・説明、言葉かけ ・アドバイス |
| | | | ・テーマに関する知識を習得する。 | ・情報提供 ・知識習得方法のヒント(アンケート調査など) | ・グループ内で意見交換 ・情報提供 ・アンケート協力 | ・施設提供 ・情報提供 ・アンケート協力 |
| | 課題設定 | 課題検討 | ・発見した課題を発表する。 | ・聞く、言葉かけ | ・聞く、自分との比較 | |
| | | | ・発表について意見交換をする。 | ・アドバイス | ・感想、意見 | ・アドバイス |
| | | 課題決定 | ・課題の再設定を行う。 ・学習計画を立てる | ・対話 ・アドバイス | ・意見交換 | |
| 課題解決の段階 | 情報収集 | 課題の焦点化 | ・何を調べるかを具体化する。 | ・対話 | ・意見交換 | |
| | | 情報源検討 | ・課題解決のための情報源を探す。 | ・情報源の資料やリンク集の提示 | ・情報源についての情報交換 | ・情報源の紹介 |
| | | 収集 | ・情報を集める。 | ・情報源の活用方法やマナーの教示 ・施設活用方法の教示 ・機器利用方法の教示 | ・情報源の共有 ・マナーについての話し合い | ・資料提供 ・施設紹介、提供 |
| | 情報処理 | 情報選択 | ・課題に応じて必要な資料(情報)を選択する。 | ・必要情報の確認 ・キーワードの誘引 | | |
| | | 情報理解 | ・集めた資料(情報)を自分の考えで要約する。 | ・アドバイス(ラインマーク、資料にメモ、箇条書き、キーワード化、図式化、グラフ化など) | ・話し合い(個別、グループ) | ・アドバイス |
| | 考察 | 情報分析 | ・まとめたものを総合的に考える。 | ・アドバイス(類似性のあるものの整理、関連性について思考判断) | ・グループ内で話し合い | |
| | | 知の創造 | ・自分の考えをまとめる。 | ・対話による考えの整理 | ・意見交換 | |
| 学習のまとめ・発展の段階 | 情報発信 | 発表構想の検討 | ・発表方法を検討する。 | ・発表方法の例示(掲示物、ポスターセッション、パソコンによるプレゼンテーションホームページなど) | ・グループ内で話し合い | ・アドバイス |
| | | | ・発表に使う資料を選択する。 | ・ワークシートによる筋道の確立 ・対話による筋道の確立 | | |
| | | 発表準備 | ・発表内容を、原稿を検討する。(論理的筋道の明確化) ・発表物を自分の考えで工夫して作成する。 | ・対話 | ・話し合い(個別、グループ) | ・アドバイス |
| | 発表 | ・発表の事前準備や打ち合わせをする。 | ・打ち合わせ項目の提示 | ・グループ内で話し合い | | |
| | | ・発表(リハーサル)をする。 | ・発表の注意事項の確認 ・評価カードによるまとめの教示 ・ワークシートによるまとめの教示 | ・他の発表に学ぶ | ・発表会場提供 ・発表会参加 ・意見、感想 | |
| | 発展 | 学習の発展 | ・新たな課題を発見する。 ・学びを自己の生き方へ発展させる。 | ・アドバイス ・対話 | ・グループ内で意見交換 | ・対話 |

<表2> 学習段階別の評価方法・評価規準一覧(1)

| 学習段階 | 評価者・方法 | | | 重点を置く評価の観点 | 関心・意欲・態度 ① | 課題発見力 ② | 学習を見通す力 ③ | 情報収集力 ④ | |
|-------|------------------------------------|----------------------------------|----------------------|------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|
| | 教師 | 生徒 | 外部の人 | | | | | | |
| 動機付け | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート | ・自己評価カード ・相互評価カード | ・観察 ・アドバイスカード | ①⑧ | ・講話、視聴覚教材、体験など、興味をもって参加し意欲的に学習している。 | ・講話、視聴覚教材、体験から疑問をもつことができる。 | ・講話、視聴覚教材、体験から自分の学習をイメージすることができる。 | ・講話、視聴覚教材、体験を通してテーマに関する知識を得ることができる。 | |
| 課題発見 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート ・ポートフォリオ | ・自己評価カード ・相互評価カード ・ポートフォリオ | | ②④⑤ ⑧⑨ | ・進んで疑問や興味をもったことを挙げている。 | ・疑問点から自分の課題をしぼっていきける。 | ・テーマに沿った知識を習得することができる。 | ・自分に必要な知識を様々な情報源から集めることができる。 | |
| 課題設定 | 課題検討 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート | ・自己評価カード ・相互評価カード | ・アドバイスカード | ⑦⑧⑨ | ・意欲的に自分の課題を発表したり他者の発表を聞いている。 | ・課題の発表から学習の方向性を明確にできる。 | ・必要な情報を様々な情報源から集めることができる。 | |
| | 課題決定 | ・観察 ・補助簿 ・ポートフォリオ | ・自己評価カード ・ポートフォリオ | | ②③ | ・意欲的に自分の課題の問題点を見付けている。 | ・発見した課題について再設定することができる。 | | |
| 情報収集 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート | ・自己評価カード | ・アドバイスカード | ②④⑦ ⑧ | ・自分の課題について調べる内容を具体的に考えようとしている。 | ・課題と照らし合わせ調べる内容をしぼることができる。 | ・調べようとすることが自分の課題と合っているか判断できる。 | ・必要な情報の所在や収集の方法を考えることができる。 | |
| 情報処理 | ・観察 ・補助簿 | ・自己評価カード | | ⑤ | ・進んで情報を選択しようとしている。 | | ・必要な情報をキーワード化するなど情報選択の基準を明確にできる。 | | |
| 考察 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート ・ポートフォリオ | ・自己評価カード ・ポートフォリオ | ・アドバイスカード | ⑥⑦⑧ | ・工夫して情報を再編集しようとしている。 | ・情報を再編集しながら新たな疑問を発見できる。 | ・類似性、相違性、関連性などの方向性をもって、情報を再編集できる。 | ・再編集の際に不足している情報が何かを考察集めることができる。 | |
| 情報発信 | 発表構想の検討 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート | ・自己評価カード | | ③④⑤ ⑥ | ・意欲的によりよい発表にするための発表方法を考えている。 | ・発表に必要な物品や機器などの課題を考えることができる。 | ・発表までの見通しや可能性について考えることができる。 | ・発表方法についての情報を集めることができる。 |
| | 発表準備 | ・観察 ・補助簿 ・ワークシート | ・自己評価カード | | | ・意欲的に発表物を作成しようとしている。 | ・作成する発表物の課題を明確にすることができる。 | ・作成上必要なものを考え効率的に準備を進めることができる。 | |
| | 発表 | ・観察 ・補助簿 ・アドバイスカード | ・自己評価カード ・相互評価カード | ・アドバイスカード | ⑥⑦⑧ ⑨ | ・意欲的に発表しようとしている。 ・他者の発表に関心をもっている。 | ・他者の発表から新たな疑問点を探し出すことができる。 | | ・それぞれの発表から新たな情報を集めることができる。 |
| 学習の発展 | ・観察 ・補助簿 ・ポートフォリオ | ・自己評価カード ・ポートフォリオ | ・アドバイスカード | ①②⑦ ⑧⑨ | ・進んで学んだことを自分の生活に生かそうとしている。 | ・新たな疑問点から自分の課題を再発見できる。 | ・学習成果を自分の生活や生きかたで考えることができる。 | ・自分に必要な新たな情報を集めることができる。 | |

<表2> 学習段階別の評価方法・評価規準一覧(2)

| 情報処理能力 ⑤ | 考察力 ⑥ | 自己表現力 ⑦ | コミュニケーション能力 ⑧ | 生き方を考える力 ⑨ | その他 ⑩ | 学習 段階 |
|---|---|--|---|--|----------|----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・講話、視聴覚教材体験から分かったことをまとめることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講話、視聴覚教材、体験を通して、自分の意見や感想をもてる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講話、視聴覚教材、体験を通して、自分の考えを文章化したたり、他者に考えを述べるができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や状況を考えマナーを守り接することができる。 ・他者の考えを受け入れることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講話、視聴覚教材、体験を通して、自分の生活を見つめることができる。 | | 動機 付け |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今までのポートフォリオを振り返り必要な情報を選択できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を再編集しながら自分の興味ある課題をしぼることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味ある課題をしぼる上で、その根拠を示し説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを知るためにかかわりを求めている。 ・他者の考えを自分の考え方に生かすことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者のアドバイスや意見から他者の生き方を知ることができる。 | | 課題 発見 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他者からの意見を簡潔にまとめることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表に対して自分の意見や感想をもつことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく自分の課題を発表することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表をマナーを守って聞くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を自分の学習活動に生かすことができる。 | | 課題 検討 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換において他者の考えを理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の判断で課題を再設定することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスを求めたりアドバイスを傾けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を自分の課題設定に生かすことができる。 | | 課題 設定 課題 決定 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報源の中から、自分の課題に合った情報源を考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種の情報源を比較検討できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや対話の中で、自分の調べる内容を分かりやすく表現できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者にかかわりを求め情報を得ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に調べる内容について適切に自己評価できる。 | | 情報 収集 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた情報の選択基準に基づいて情報を選択し活用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報の類似性に着目して情報を分類できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の選択に際して、自分の考えを主張することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の選択に際して、他者に意見を求めたり意見を受けて、自分の考えを述べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を自分の考えに生かすことができる。 | | 情報 処理 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた情報を類似性や関連性に着目したり、相違点を比較したりして再編集することができる。 ・情報を再編集する際にグラフや表、図などを利用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の再編集の仕方について、自分の考えを他者に伝えることができる。 ・再編集した情報から分かったことを自分で考えた方法で伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の再編集に際して他者に意見を求めたり意見を受けて、自分の考えを述べることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を再編集する際に、自分の考え方や生き方にふれることができる。 | | 考察 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表方法の長所や短所を理解することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって自分に合った適切な発表方法を決めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択した発表方法の理由を分かりやすく説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・聞く側に立って、発表方法を考えることができる。 ・発表方法について他者と意見交換ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表方法の決定について適切に自己評価できる。 ・自己評価を次の活動に生かすことができる。 | | 発表 意思の 検討 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・発表物を自分の課題に合った発表内容にまとめることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用する情報を、発表に適したもの(表、図、グラフなど)に再編集できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主張したいことを、簡潔な形式(箇条書き、表、図、グラフなど)で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表物を聞く側に立って、字の大きさや言葉遣いなど配慮し作成することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作成した発表物を適切な自己評価できる。 | | 発表 準備 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表のよさを見つけることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に合った発表内容を自分の考えた方法で、分かりやすく発表できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を適切に評価しアドバイスをすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を自分の生活や生き方に生かすことができる。 | | 発表 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表から得た情報を整理し、まとめることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果をこれからの学習につなげていくことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習で得たことを、主体的に自分の生活や生き方に生かすことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かして他者とのかかわりをもつことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、自分の生活や生き方を見つめ直すことができる。 | | 学習 の 発展 |

4 学習段階別の学習支援と評価

(1) 課題設定の段階における学習支援と評価

<学習支援と評価のポイント>

実態調査では、教師・生徒ともに課題設定の段階における支援の必要性を第一位にあげている。「総合的な学習の時間」が、各教科の学習と異なり、自ら課題を設定し、解決するという課題解決型の学習であるため、生徒は自らの興味・関心を明らかにする必要がある。そこで個々の生徒の学習意欲を喚起し、興味・関心を引き出すとともに学習の見通しをもって学習計画を立てたり、修正したりできるような学習支援と評価の在り方について探ることとする。

① 多くの出会いが生徒を元気づける

視聴覚教材を用意したり、専門的な知識や技能をもったゲストティーチャーの招聘、体験的な学習の場を用意することで、生徒に内在する興味や関心を引き出すと考える。

② 効果的なアドバイスで生徒は動く

多くの出会いの中で、生徒は様々なアドバイスを受ける。教師はもちろんのこと、外部の方やときには生徒相互でアドバイスをし合うこともある。

課題設定の段階は、生徒が自分の興味・関心を明らかにし、最終的に学習課題を決定する。多くの生徒は決断することを悩んだり、学習課題をし

<表> 学習支援（言葉かけ）の類型化

| 学習段階 | | 種類 | 言葉かけの具体例 | |
|--------|------------|-------------------|-------------|------------------------------|
| 動機付け | ガイダンス | 体験的な場面 | 激励・応援 修正 | がんばれ。よくやったね。 ここはこうの方がいいよ。 |
| | | 課題の創造 (発想を広げる) | ウェビング | 問題提起 引き出し 提案 |
| グループ討論 | 問題提起 同意 | | | 私はこう思うよ。こうかな。 僕もそう思うよ。 |
| | 情報収集 | | | 指導 |
| 課題設定 | 課題検討 | 発表 | 感嘆 修正 | すごいね。 ここはこうの方がいいよ。 |
| | | | 検討 | 引き出し |
| | 課題決定 | 学習計画 | 誘導 激励 | こうしたらどうか。 思い切ってやってみよう。 |

ぼりきれない。そこで、教師をはじめとする支援者は、悩む生徒を激励・応援するとともに決断できない生徒に誘導的な言葉かけをすることが有効である。

③ 学習チェックで生徒は見通しをもつ

生徒は「調べ学習」の進め方に戸惑い、学習計画の段階で活動が停滞することが予想される。意欲を喚起し、さらに持続させるには、まず学習の見通しをもたせることが大切である。そこで、課題設定の段階の共通する学習の流れを提示するとともに、重点をおく評価の観点を示す。そして、学習段階ごとに評価カードを作成し、各評価項目をチェックさせながら学習状況を確認したり、生徒相互でアドバイスカードを利用し合うことが効果的である。また、生徒の学習活動の成果をみる上で、保護者の記入欄を設けて記入してもらうことは、意欲を喚起するうえでも有効である。このように、課題設定の段階では、教師の誘導的な言葉かけと自己評価・相互評価・外部評価をそれぞれうまく組み合わせることで、生徒の学習計画を早い段階で修正することができ、次の学習段階における調べ学習をより効率的に進めることにつながるものと考えられる。

(2) 課題解決の段階、学習のまとめ・発展の段階における学習支援と評価

<学習支援と評価のポイント>

課題解決の段階は、調べ学習の情報を処理し考察する段階であり、生徒は自己の課題に応じて様々な学習資源とかかわりながら、楽しく調べ学習を進めることが可能な場面である。そこで、情報収集の場面では、情報源となる学習資源の整備や場の提供、情報収集の手だてを習得するための学習支援が必要である。また、情報処理・考察については、学習スキルを向上させるための学習支援や評価の工夫が鍵となる。

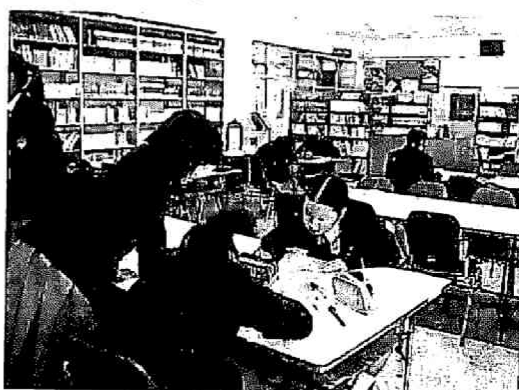
学習のまとめ・発展の段階は、調べる力から発表する力を身に付ける学習への転換期である。資料のまとめ方や発表の仕方などの実践スキルに関する学習支援や学びの実践化に向けた情報提供やアドバイスの必要である。

① 共感・感動は生徒の自信となる

生徒の学習が課題解決の方向に向かっているかをポートフォリオから読みとり、一人一人の生徒やグループの学習状況に応じて意欲を喚起する支援が必要である。個々に課題が違いうように、学習内容・活動も違ってくる。そのような状況で、教師や仲間から自分の学習状況を認められ、共感したり賞賛されることは、自分の学習に自信をもち学習を進めることが可能になる。

② 多様な情報提供が学習活動をスムーズにする

インターネット、図書館・博物館などの活用、実験・観察、写真、ビデオ撮影、フィールドワーク、インタビューなどの情報収集の方法を教師が提供することで、生徒は様々な情報源から多様なアプローチで情報を集めることができる。また、自分の課題に合った情報であるか、情報収集の方法が適切であるかどうかを自己評価や相互評価で確かめる必要がある。



★ 図書館で情報収集

「昔の遊びについて調べてみよう。」

「昔って、どの時代のことなの。」

③ かかわりの中でコミュニケーションの力が身に付く

体験的な活動や自ら情報収集を進めるなかで、様々な人々とかかわりをもつことになる。自己の課題を解決するために、人の意見を聞いたり自分の考えを伝えたりしながら、自然とコミュニケーションの力がはぐくまれていく。さらに、いろいろな人の生き方に触れ、自己の生き方を考える契機になる。

④ 学校外の人的支援で楽しく疑問は解決する

情報収集をし、疑問点が焦点化された段階では、専門的な知識や技能をもった人々をゲストティーチャーとして招き、学習を深めていく。生徒の課題に対応できる人材を確保したり、ゆとりをもってかかわれるような時間と場を設定することも有効な支援である。

⑤ 子どもの相互支援で学習のパワーアップ

情報収集の場面では、生徒同士で情報交換や話し合いを繰り返し行うことで、各自の情報資源の質と量を豊富にしていくことができる。また、発表準備や発表場面では、意見交換やアドバイスをするなど、相互評価により互いの学習状況が改善されていく。



★ インターネットで情報検索

「先生、探してる情報がありません。」

「キーワードを入力してごらん。」

V 実践事例

1 動機付けから課題設定の段階における検証授業

《 検証の視点 》

課題発見・課題設定場面での教師の言葉かけによる学習支援と生徒の発想の広がり

(1) テーマ・実施学年

- ① 学校テーマ 「共生」
 ② 2学年テーマ・単元 「地域との共生」 ・ わが町に生きる

(2) 単元設定理由

本校の特色として、地域と学校との密接なかかわりが挙げられる。特別養護老人ホームや保育園、生活実習所、福祉園などにおけるボランティア活動、地域連合運動会、祭礼、ガーデンパーティーなどへの積極的な参加を含め子どもたちと地域との深いつながりに目を向け地域と共に生きることを中心に考え「共生」を総合的な学習の時間の学校テーマとしている。

2学年では、地域においてどのようにかかわりを持ち、どのような共生が望ましいのか、子ども一人一人が自分自身の生活や地域に目を向け、自分にふさわしい課題とは何かを考え、調べ学習を進めていくようにした。

(3) 第2学年指導計画

(70時間扱い)

| 学期 | 学習段階(時間) | 学習内容 | 学習支援 | 評価 | |
|---------|-----------|--------------------|-----------------|-----------------------------|---|
| 1 学期 | 2 | ガイダンス(2) | 学習のねらいや方法等の理解 | ・アドバイス | 自己評価 自己評価 相互評価 教師の評価 |
| | 20 | 体験学習(10) | デイキャンプ・火をおこす体験 | ・体験の場の設定 | |
| | | まとめ(2) | (生きることとの関連付け) | ・時間の確保 | |
| | | ビデオ鑑賞(6) | テーマに関連したビデオ鑑賞 | ・アドバイス | |
| | まとめ(2) | 「福祉」に関するビデオ鑑賞 | (教師・地域の人) | | |
| 2 学期 | 3 | 課題発見(2) | グループによるウェビング | ・アドバイス | ポ リ ト フ オ リ オ 評 価 |
| | | 課題検討(1) | 個人の課題の設定(本時) | (教師・生徒同士) | |
| | 5 | 課題決定(2) | 個人課題の再設定 | ・対話(教師) | |
| | | 学習計画(3) | 学習計画作成 | ・意見交換(生徒) | |
| 22 | 調べ学習準備(2) | グループでの話し合い | ・アドバイス | | |
| | 情報収集(10) | フィールドワーク、調査など | (教師・地域の人) | | |
| | 情報処理(5) | 情報の選択、整理 | ・学校内施設活用 | | |
| | 考察(5) | 情報のまとめ、報告書内容検討 | ・学校外施設活用 | | |
| 3 学期 | 8 | 発表構想検討(2) | 発表資料準備 | ・アドバイス | 自己評価 相互評価 教師の評価 外部の評価 |
| | | 発表準備(6) | 報告書作成 | (教師・生徒同士) | |
| | 7 | 発表会(7) | 学級で班ごとに発表 | ・意見、感想 (生徒・保護者・ 地域の人) | |
| | | | 学年発表 | | |
| 3 | 学習のまとめ(2) | 学習の振り返り | ・対話 (教師・保護者) | | |
| | 学習の発展(1) | 新しい課題の発見 学びの実践化 | | | |

(4) 本時のねらい 「自分の課題を発見しよう！」

- ① 学習テーマ「共生」に沿って、グループで協力し合い発想を広げる。
- ② 他の人が決めた課題やアドバイスを参考にして、自分の興味・関心に応じた適切な課題を発見する。

(5) 本時の展開

(70時間扱い23、24、25時間目)

| | 学習内容・学習活動 | 学習支援 *教師 (T) 生徒 (S) | 評価の観点 |
|-------------|--|---|-------|
| 導 入 | 1 本時のねらい、学習内容の理解 ○これまでの体験的学習の振り返りを行う。 ○本時の学習内容と学習の流れを知る。 | 1◇ポートフォリオを活用し、問いかけ、対話する。(T) | ① |
| | 2 ウェビング ○「共生」から発想を広げる。 (班ごとに模造紙に記入する。) | 2◇「地域との共生」に関連した課題を見付けることができるようにアドバイスや対話をする。(T) ◇生徒同士でアドバイスをし合う。(S) | ②③ |
| 展 開 | 3 ウェビンの結果発表 ○班ごとに発表者を決め、ウェビングの結果を発表する。 | 3◇発表の内容・方法について話し合う。(S) | ⑦⑧ |
| | 4 個人の課題の発見 ○模造紙に記入された言葉から自分に適した課題を見付ける。 | 4◇何に興味があるか対話する。(T) ◇調べることが可能な課題であるかどうかを考えさせる。(T) ◇課題について意見交換をする。(S) | ②⑥⑧ |
| | 5 個人の課題の設定・発表 ○各自で課題を短冊に記入し掲示する。 ○自分の課題と課題設定の理由を発表する。 | 5◇課題の記入方法を示す。(T) ◇他の人の課題のよさを見発見するよう働きかける。(T) ◇発表のマナーを考えさせる (T) | ⑦⑨ |
| | 6 発表した課題への質問・アドバイス ○掲示された課題に対してアドバイスを する。(アドバイスカード活用) | 6◇アドバイスカードの記入方法を示す。(T) ◇互いに課題について対話する。(S) | ⑥⑧ |
| ま と め | 7 設定した課題の再検討 ○アドバイスから課題を再検討する。 | 7◇調べ学習として学習が続けられる課題かどうかについて対話する。(T) | ⑨ |
| | 8 まとめ ○ワークシートに記入する。 ○自己評価カードに記入する。 | 8◇ワークシートと自己評価カードの記入方法を示す。(T) | |

※ 評価 ⇒ <表2>学習段階別の評価方法・評価規準一覧参照 (P12、P13)

(6) 評価

- ① 学習テーマ「共生」に沿って、グループで協力し合い発想を広げることができた。
- ② 他の人が決めた課題やアドバイスを参考にして、自分の興味・関心に応じた適切な課題を発見することができた。

(7) 成果と課題

<成果>

課題発見・課題設定の学習段階において、教師の言葉による学習支援（表1）を積極的に行うことで、生徒の学習意欲を喚起し、学習活動がねらいに沿って円滑に進めることができた。また、教師が言葉をかける場面やその言葉の種類により学習活動へどのような影響を与えるかを探ることができた。

<表1> 教師の学習支援（言葉かけ）の具体例

| 場面 | 教師の言葉 | 言葉かけの種類 |
|-------------------------|---|---------------|
| 1 ウェビング ①発想を広げている時 | 〇〇と言えば何かな？ | 誘導的 |
| | この言葉を見てどんなイメージが広がる？ | 問題提起 |
| | テーマが広がるキーワードを考えてみよう！ | 提案 |
| | いいね！いいね！ いい発想だね！ | 賞賛 |
| | 沢山ことばが出てきたね、その調子！ 映画の主人公は、何と共生していたの？ | 激励・応援 引き出し |
| ②テーマからそれ始めたり、行き詰まったりした時 | どこからずれた？どこに戻ればいい？ | 修正 |
| | 「〇〇」と「共生」ってどんなこと調べられる？ | 提案 |
| | 先生はちょっとイメージしにくいなあ。 | 感想 |
| | 調べる段階をイメージできるのがいいよ。 共生とどう関係しているの？ | 指導的 問題提起 |
| 2 個人課題発見と課題設定 | 「人」、「自然」、「環境」、「情報」との共生に分かれているね。 | 誘導的 |
| | この中で自分で調べてみようと思うことは？ | 問題提起 |
| | この課題で調べてみたいことがたくさん浮かぶ？ | |
| | おっ、先生もそのことについて知りたいなあ。 | 共感 |

「共生」という言葉からウェビング法を用いて生徒が発想を広げていく際、教師による様々な言葉かけ（アドバイス）により生徒の言葉の数は倍増した。また、一人で発想を広げることのできない生徒にとってグループによるウェビングは、仲間の発想を知り、一人で思い悩む不安を取り除く意味で大変有効であることが実証された。

しかしながら、発想が広がり過ぎてゲーム化してしまう傾向の班もあり、発想を広げるアドバイスだけではなく、生徒一人一人が実際に何をしているのかよく観察し、本来のテーマからあまりにも無関係な方向への連想を見逃すことなく、軌道を修正するよう働きかけをすることも重要である。これは、単に方向を修正だけではなく、一人一人の生徒をよく観察し、適切な言葉かけをすることで、生徒理解を深め、後の学習支援や評価活動を容易にする。そして、教師によるアドバイスや対話とともに、グループ内での生徒相互の対話やアドバイスカードが効果的に活用され、個人の課題発見及び設定に役立っていた。

また、ポートフォリオは、単元の途中ではあるが、生徒一人一人の学習過程を把握し、次の学習に導く資料として役立つとともに、生徒が自己の学習を振り返り、軌道修正をしたり学習の方向性を確かめたりするために有効であった。

<課題>

- グループによるウェビングだけでは、一人一人の生徒が自分にふさわしいと思える課題が見つからない場合も考えられるので、さらに、グループでのウェビングの体験を基に、個人でのウェビングを試してみる必要もある。
- グループまたは個人の活動のどちらの場合においても、教師のアドバイスが与える影響・効果は大きいので、有効なアドバイスをするための幅広い知識や指導的アドバイスだけでなく誘導的・激励的なアドバイスにより生徒自らの発想を促す柔軟な発想や対応能力を教師自身が身に付けることが課題である。さらに、教師が工夫しながら学習支援を繰り返し行うことは、教師自身の指導観を刺激し、指導力向上の支援ともなると考える。
- ポートフォリオ評価について、生徒一人一人の学習のファイリングの充実と各学習段階での評価場面や評価カードを工夫・検討する必要がある。

<資料1> ガイダンス～課題設定の学習段階までのポートフォリオ

| | | |
|--|--|--|
| <p>【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習計画説明資料 ②自己評価カード <p>【体験学習】デイキャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①火のおこし方学習資料 ②かまど造り資料 ③献立表と買い物計画表 ④会計報告書 ⑤自然観察ワークシート ⑥感想文 ⑦アンケート用紙 | <p>【ビデオ鑑賞1】</p> <p>*テーマに関連した映画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①映画鑑賞ワークシート <p>【ビデオ鑑賞2】</p> <p>*ビデオ「障害のある人々の生き方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①様々な障害についての学習シート ②地域の福祉施設調べ ③福祉施設へのアンケート ④バリアフリー・アイデア作り ⑤感想文 ⑥自己評価カード | <p>【課題発見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人ウェビング用紙 ②課題記入短冊 ③自己評価カード ④アドバイスカード <p>【課題設定・課題の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①課題記入用紙 ②発表・質問用紙 ③アドバイスカード ④ワークシート ⑤自己評価カード |
|--|--|--|

<資料2> 課題設定・発表段階のワークシート

学習段階 () 年 組 番 氏名

私の課題

<アドバイス> (もらったアドバイスを貼っておこう!)

| | |
|----------|----------|
| () さんより | () さんより |
|----------|----------|

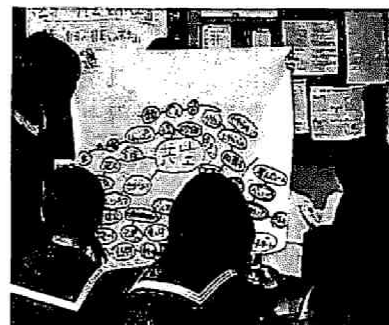
<学習を終えて>

| | | |
|-----|-----|-----|
| ABC | ABC | ABC |
|-----|-----|-----|

感想・反省:

| | |
|----------|---------|
| <保護者の一言> | <教師の一言> |
|----------|---------|

(まだまだポートフォリオはつづく)



★発想の広がりとともに生徒のつぶやきも多く聞かれる。

「だいぶ広がったね。」

「まだ広がりそうだね。」

「これで調べてみようかな？」

「あれもいいな。」

「おもしろそうだね。」

2 情報収集の段階における検証授業

《 検証の視点 》

情報収集の場面において多様な情報収集の場の設定により、子どもの情報収集活動の活性化を図る

(1) テーマ・実施学年

- ① 学校テーマ 「豊かな心をはぐくむ」
 ② 1学年テーマ・単元 「地域との交流」 ・ 高齢者とのふれあい

(2) 単元設定理由

1学年では、地域との交流をテーマに1学期に「地域探検レポート」を行い、地域の生活環境や諸問題について調べ学習を行ってきた。また、近隣の幼稚園や保育園での保育体験を通じて幼児や幼稚園の先生・保育士との交流を図り、社会の一員として生きる自分の役割を考えた。2学期では、これまでの経験を生かし、高齢者や福祉施設で働く職員との交流会を行う。そこで、高齢者の方々が生きてきた時代について、個々に課題を設定し、調べ学習を進めていながら、自分たちが生きている現代社会と向き合い、これからの社会について考えるとともに自分の生活や生き方を見つめ直す機会とした。また、生徒一人一人が調べ学習を進めるにあたり、パソコンを学習の道具として情報収集・処理・発信などに自在に操作・活用できるように、計画的にパソコン操作の基礎的学習の時間を設けた。

(3) 第1学年指導計画

(70時間扱い)


| 学期 | 学習段階(時間) | 学習内容 | 学習支援 | 評価 | |
|-------------|------------------|--|-----------------------------------|----------------------------------|------------------------|
| 1 学 期 | 6 | ガイダンス(2) 共通学習(4) | ・アドバイス ・情報提供 | 自己評価 相互評価 | |
| | 14 | 体験学習(14) | ・体験の場の設定 | 教師の評価 | |
| 2 学 期 | 8 | 動機付け(1) | ・アドバイス (教師・福祉施設職員) | 自己評価 | |
| | | 課題発見(2) | | 相互評価 | |
| | | 課題検討(2) | | 教師の評価 | |
| | 課題決定(3) | 個人課題の再設定、学習計画 | ・意見交換(生徒) | 外部の評価 | |
| | 8 | 情報収集(8) | 課題に関する情報収集(本時) | ・情報源の紹介 (人材・施設など) | 自己評価 |
| 8 | 情報処理(6) 考察(2) | 集めた情報の選択・整理 自分の考えをまとめる | ・情報提供 (教師・地域の高齢者・福祉施設職員) | 相互評価 教師の評価 | |
| 10 | 準備(4) 交流会(2) | 交流会の企画・立案・準備 高齢者との交流会 | ・アドバイス(教師) | 自己評価 | |
| | 学習の まとめ(4) | 交流会のまとめ (感想・礼状・手紙など) 学習の振り返り・新課題発見 | | ・意見、感想 (地域の高齢者・福祉施設職員・保護者・生徒) | 相互評価 教師の評価 外部の評価 |
| 3 学 期 | 16 | 学習の 発展(16) | 新課題に向けた調べ学習 学習のまとめ 学習成果の実践化 | ・アドバイス (教師・地域の人) ・対話(教師) | 自己評価 相互評価 教師の評価 |

(4) 本時のねらい 「工夫して情報を収集しよう！」

- ①主体的に行動し、進んで情報を収集しようとする。
- ②自分の課題に応じて情報源を選択し、情報を収集する。
- ③ゲストティーチャーに対してマナーを守り、要点を押さえた質問を行う。
- ③自分の課題に合わせて収集した情報や資料を整理する。

(5) 本時の展開

(17時間扱い7、8時間目)

| | 学習内容・学習活動 | ◇ 学習支援 ☆ 評価 |
|-------------|--|--|
| 導 入 | 1 本時のねらい・学習の流れの理解 ○本時の授業の見通しをもつ。 ○ワークシートの活用の仕方を知る。 | 1 ◇学習の振り返りにポートフォリオを活用させる。 ☆学習の見通しをもつことができる。 |
| 展 開 | 2 情報収集 自己の課題についての情報を、自分の課題に適した情報源を選択し収集する。 <情報源> (1) 図書室 (関係図書) (2) パソコン室 (インターネット) (3) インタビュー室 (地域の人に質問) 3 情報整理 収集した情報を、教室で整理する。 *ワークシートに記入する。  | 2 (1) 図書室での情報収集 ◇事前に関係図書を整備する。 ◇図書の選び方を助言する。 (2) パソコン室での情報収集 ◇パソコンの操作の仕方を援助する。 ◇情報へのアクセスの仕方を示す。 (3) インタビュー室での情報収集 ◇礼儀、マナーについて指導する。 ◇質問の仕方について助言をする。 ◇ゆとりをもって質問できるような時間と場所を設定する。 3 教室での情報整理 ◇情報の整理の仕方を助言をする。 ☆主体的に情報を収集できる。 ☆自分の必要とする情報を適切な情報源から収集し整理することができる。 ☆マナーを守り学習することができる。 |
| ま と め | 4 本時の学習のまとめ ○本時の学習を振り返る ○学習の進行状況を発表し合う。 ○今後の学習の見通しをもつ。 5 次時の学習の準備 | 4 ◇情報の集め方や情報整理の仕方についてどのような課題があったかを考えるよう助言する。 ☆本時のねらいを達成し、今後の学習の見通しをもつことができる。 |

※ 評価 ⇒ <表2> 学習段階別の評価方法・評価規準一覧参照 (P12、P13)

(6) 本時の評価

- ① 主体的に行動し、進んで情報を収集できた。(意欲・関心・態度)
- ② 自分の課題に応じて情報源を選択し情報を収集できた。(情報収集力)
- ③ マナーを守り、要点を押さえた質問ができた。(自己表現力)
- ③ 自分の課題に合った情報や資料を整理することができた。(情報処理能力)

(7) 成果と課題

<成果>

今回の授業では、情報収集の段階での教師による直接的な学習支援と様々な情報収集の場の設定や学習スペース、ゆとりある時間設定などの間接的な学習支援を考えた。

間接的な学習支援としては、必要とする情報の種類や収集の方法、学習の進捗などによって教室、図書室、パソコン室、インタビュー室の4カ所の学習場所を設定した。このことで生徒は、本時の学習のねらいや学習内容を理解し、目的をもって必要とする情報を主体的に考え、自分に合った方法で情報を収集することができた。また、ゆとりある学習環境や時間の設定は、学習の雰囲気を楽しいものにし、効率よく学習活動が進められていた。

直接的な学習支援として、「どんな風にするのかな。」「何が分かったの。」「この資料はどう使うの？」などの教師の言葉かけにより、生徒は自分の学習活動の具体的なイメージを考えることができた。また、資料を集めた生徒に対して、「たくさん集めたね。」「いい資料になりそうだね。」など、教師が励ましや賞賛する言葉かけを積極的に行い、生徒一人一人に寄り添って問題を共有することで、生徒の意欲を高め、楽しい学習活動を持続させる効果が見られた。さらに、生徒同士の相互評価の会話などが、自信や自分の学習の確かめにもなり、有効な学習支援となっていた。

<課題>

調べ学習の情報源として利用度の高い学校の図書室では、図書の種類・冊数などに限りがあり、事前にテーマに沿った必要な図書の準備と整理が必要である。そのためには、年間の計画を立て図書の購入をしていくなど、図書室の運営の在り方が課題となる。と同時に、地域の公共施設の利用も欠かせない。特に公立図書館は、重要な調べ学習の情報源である。積極的に図書館との連携を図り、利用のシステムを確立することや、図書館を利用する方法やマナーなどを、教師も生徒も事前に学んでおく必要がある。

パソコン室においては、自分の課題に応じた資料を見付けることができない生徒は、テーマをそのまま検索してしまう姿が見られた。このような生徒のために、事前に教師は幾つかのサイトを見付けておき、生徒に紹介することなども一つの学習支援と考える。また、パソコン操作の学習について、計画的な実施と内容・方法の充実を図ることも大切である。

インタビュー室では、地域の方3名を講師として招き、体験や経験から自分の課題に応じて質問を行い、それらを資料としてまとめた。学校外からの講師ということで、生徒たちが、積極的に質問をしていたことは、資料収集の選択の幅を広げるという意味では大きな成果があった。しかし、生徒の意欲的な質問に予想以上の時間がかかり、時間内に質問者全員が質問を終わらせることができない状況であった。教師は事前に質問する生徒の人数や質問項目を考慮した上で、時間の設定をする必要があった。また、質問の内容を配慮し、個別の質問だけでなくグループで質問するなど、質問の仕方を工夫したりしていくことは、今後の課題であると考えられる。



VI 成果と課題・提案

本研究は、「総合的な学習の時間」において、子どもたちが、自ら課題を設定し、課題解決に向けて、主体的に調べ学習を楽しく進める姿を求め、学習支援や評価の在り方について研究を進めてきた。調べ学習を課題設定、課題解決、学習のまとめ・発展の3つの段階に分けて、学習段階別の学習支援と評価の具体的な方法について考え、授業を通して検証した。その結果、次のような成果と課題に至った。

1 成果

(1) 学習資源と支援体制の工夫

- ① 「総合的な学習の時間」を進めるに当たり、その学習スタイルの特性から、様々な学習資源が関係していることが分かった。
- ② 学習資源には、学習の素材となるものや、学習の環境、学習にかかわる人材などが考えられ、それらを学校内と学校外に分けて整理し、構造化することによって学習との関係がより明確になり学習支援の在り方が方向付けられた。
- ③ 人的な学習資源には、教師以外に生徒同士、地域の人、その他学習に関係する人々などが考えられ、教師以外に多くの人とのかかわりの中で学習が活性化された。
- ④ 図書館やパソコン室などの物的な学習資源は、情報源や学習活動の場として重要であり、子どもの調べ学習を円滑に進める上で大きく影響することが認識できた。

(2) 各学習段階における学習支援と評価について

- ① 情報収集の段階でインターネットを活用することは、自己の課題をいろいろな角度から考えイメージさせることができ、また、キーワードが明確になった。
- ② インターネットを活用する上で、あらかじめリンク集を用意しておくことで、検索が進まない生徒の情報収集が容易になることが分かった。
- ③ 図書館や図書室の利用では、事前に学習テーマに関連した図書や資料を計画的に集めておくことで資料収集が能率的となり、また、新たな資料発見にもつながった。
- ④ 地域人材の活用は、生徒の興味・関心を高め、意欲的な学習活動につながった。
- ⑤ 調べ学習は、学習段階ごとに学習活動が展開され、その段階に応じた特色ある学習支援や評価の在り方があることが分かった。
- ⑥ 課題設定の段階では、意欲を喚起し発想を広げるような教師による言葉かけなど、言葉による直接的な支援が特に有効であった。
- ⑦ 子ども同士の相互支援は互いの学習を認め合い、励まし合い、望ましい人間関係を築き上げていた。
- ⑧ どの学習段階においても、教師が生徒に対する励ましの言葉かけ（支援）は、子どものやる気や自信につながるなど、特に情意面での成果が大きかった。
- ⑨ 各学習段階での評価規準を明確にし、生徒の活動を見ることで、より適切な評価となり、課題を明確化したり、課題解決のための学習を深めることができた。
- ⑩ 情報収集・検討の場面では、教師のアドバイスの他にテーマに関連した専門的な知識を有する人材からの講話や情報提供は、子どもの学習意欲を喚起するとともに学習の質を高めた。

2 課題

- ① 子どもの学習状況を的確に把握せず一方的な支援は、生徒の意欲を欠くことになる。
- ② アドバイスカードやワークシートは、学習場面や内容に合わせて作成・活用するなど多様な学習活動に対応させていく必要がある。
- ③ 学校だけでは子どもたちの多様な学習活動に対応するのは困難であり、学校教育と社会教育が連携・融合した体制づくりの検討は課題である。
- ④ 「総合的な学習の時間」で身に付けさせたい力を、指導する側が明確にし、ねらいの達成とともに具現化の方策を考案することが大切である。
- ⑤ 「総合的な学習の時間」について、ねらいや学習内容・方法などを地域や保護者に説明をするとともに、連携・協力を積極的に進めていく必要がある。
- ⑥ 学校の実態に応じた、学校内外の支援体制づくりを推進することは課題である。
- ⑦ 継続的に調べ学習を進めていく上で、子どもの個人差を考慮し、個々の学習状況に応じた支援の在り方を校内で組織的に検討する必要がある。
- ⑧ 子どもが、どの学習段階に取り組んでいるのかを適切に把握することが大切である。
- ⑨ 図書室の利用では、同じ本が複数無いなど、資料数に限界があるため、同時に調べるのが難しい状況がある。
- ⑩ インタビューによる調べ学習では、質問する時間や質問内容、人材の選択など事前に教師が配慮して設定する必要がある。
- ⑪ 適切な言葉かけであるかどうかを常に教師自身が考え、研究する必要がある。
- ⑫ 外部支援についてはネットワークを広げたり、活用の在り方を検討する必要がある。
- ⑬ 単元ごとに評価計画を作成し、単位時間ごとの評価の充実を図れるような評価カードの作成やポートフォリオ評価について研究を深めることが課題である。

3 提案

今回の研究では、生徒の学習活動に人材・施設など様々な学習資源がどのようにかわることが望ましいのかを各種学習資源の特性から検証してきた。その中で、「総合的な学習の時間」を進めるにあたり、子どもたちの調べ学習を円滑に進めるためにニーズの高い学校の図書室や地域の図書館がクローズアップされ、利用したい学校外の施設のトップには図書館が挙げられている。学校の図書室が読書センター及び学習情報センターとして有効に機能するためには、図書担当教諭や来年度から配置予定の司書教諭を中心として、学校をあげて組織的に図書室の充実・改善に取り組むことが重要な課題である。また、自校に無い図書や資料などの対応として、近隣の学校との連携で相互貸借などの工夫により資源の共有化を図ったり、積極的に地域の図書館の利用を推進する必要がある。そこで、学校間の連携を図るとともに、地域の図書館の利用法や館内でのマナーなどについて、教師自身が熟知し、子どもたちに事前に指導をすることが大切となってくる。

各学校において図書室の充実・改善を図るとともに、学校間や地域の図書館との連携システムを早急に確立し、子どもたちの求める様々な本との出会いや図書館の魅力を体験させ、調べ学習の楽しさを実感させることが大切であると考え。まずは、地域の図書館に連絡して連絡会を実施するなど、図書館との連携を緊密にして、「総合的な学習の時間」における調べ学習を支える身近で重要な学習資源を開発していくことを提案したい。